



白鳳点描

「想像する力」を育てる

校長 川本 幸則

もうすぐ立春です。暦の上では季節が春となります。今年は、寒さの厳しい日が少なかったように感じます。例年なら、1月下旬から2月にかけて、インフルエンザの流行を心配する時期ですが、今年度は既に2学期に学級閉鎖がありました。新型コロナウイルス感染症も「第10波」に入ったとの大村知事の発言もあり、まだまだ油断できません。これまで行ってきた感染症対策、「手洗い」「うがい」や「換気」などに気を付け、健康に過ごせるようにしていきたいものです。

また、元日に発生した「能登半島地震」から、1か月を経ようとしています。現地は非常に苦しい状況であることが報道で伝わってきます。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された中で前を向いて生きていこうとしている方々にお見舞いを申し上げるとともに、エールを送りたいと思います。

最近、「想像する力が大切」とよく耳にします。これまでも「想像する力」のおかげで、社会は発展してきました。発明王と言われるエジソンも「想像する力」が豊かであったからこそ、様々な発明ができたと思います。プロ野球の大谷選手も、自分の将来を想像し、必要な手立てを書き出して実践してきたことはよく知られています。歴史を振り返っても、「想像する力」が新しいものや、よりよくなるような手立てなどを生み出している例は、たくさんあります。

また、大きなことではなくても、日々の生活で「想像する力」が大切だなどということもあります。

授業では、子どもに「めあて」を示すことで「ゴール」をイメージさせ、そこにたどり着くための「手段」を考えさせるようにしています。授業の流れやゴールでの姿を想像することで、子どもたちは、具体的に考えることができます。この時、授業を組み立てる側の教師が予想した以上のことを子どもたちが考え、想定した以上の学びができることもあります。子どもたちは、素晴らしい力をもっていると感じる瞬間です。

また、私たちの仕事においても、何のためにやっているかをはっきりつかむことで、必要な情報を整理し、工夫することで、新しい手段や方法が見つかり、改善が図れることがあります。

毎日の生活の中でも、「想像する力」が大切だと感じる場面は多々あります。授業以外にも、何気ない周りの人との関わりの中で、相手のことをもう少し想像できればと反省した場面は何度も経験しました。

様々な場面で「想像する力」を発揮することは、私たちの生活を豊かにするとともに、子どもたち自身が、自分を大きく育てるために必要なことと考えます。そして、学童期において、想像するために必要な経験や知識を積み重ねていくことは大切です。

～～～学校評価へのご協力ありがとうございました～～～

1月29日(月)までに、H&Sアプリを通してご回答をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見の中で対応できることは、今年度中でも行っていきたいと考えています。なお、アンケートの結果は、後日お知らせいたします。

